



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

メインテキストのアクティビティとして「私の異文化体験」というタイトルでクラス内ミニスピーチコンテストを行った時のことです。

Aさんは時間をテーマにしました。国籍が異なるBさんもほぼ同じ内容でした。「今日、私は日本の時間の厳しさをお話したいと思います。日本が一番時間に厳しいと思います。(中略)今、私は毎日バスでアルバイトへ行きます。ある日、寝坊してバス停へ頑張って走りました。間に合うと思いましたが、バス停に着くと、バスがもう行ってしまったのがわかりました。時計を見ると、1分の遅刻でした。(後略)」



<Bクラス 初詣八幡神社の山頂にて>

このスピーチ原稿を読んだとき、正直言って「またか」という感想しか浮かびませんでした。日本語教師を数年続けていると、「日本は時間に厳しい」という学生の作文を見あきるほど目にします。Aさんなりにきちんと考察結論まであったのですが、私は独創性のない原稿として片づけてしまいました。しかし、学生たちの反応は全く違いました。「私も強くそう思った」「私の言いたいことを言ってくれた」「一番いいテーマだった」といったコメントでした。私達にとっては同じ事の繰り返しでも、彼ら一人ひとりにとっては自分だけの初めての経験なのだ、個別に体験をし、個別に持った印象だからこそその共感なのだ、気付かされました。私達からは留学生が皆同じように感じ皆一様に同じ反応をするように見えても、彼らにとっては、自分個人が感じたことであり自分自身の行動なのです。口では「一人一人と向き合い、きめの細かい教育を」と言っている、基本的なところでまだまだだなあと考えさせられました。

さて、もう一人、C君のスピーチについて。そのスピーチは、日常の行動の中で何回も警察官に後をつけられたり疑いの目で見られたりし、先輩にどうしてかと尋ねたら「おれたちがアジア人だからだよ」と言われショックを受けたという内容でした。紙面の都合で最後だけご紹介します。「つまり、日本では人種差別はまだ存在していると思います。私の国ではそんなことはありません。私達は人間ですよ。ヨーロッパ人もアメリカ人も日本人もアジア人もけがをしたら同じ痛みを感じます。同じ色の血が流れています。私は人種差別は大嫌いです。皆さんもそう思いませんか。」

これも、私は初めよく聞く話だからと思い、余計な指導をして無理に考察を書かせようとしてしまいました。これで終わってしまっただめだろうと。しかし、ここでも私は生身の彼の感情だという当たり前のことを忘れていたのです。理不尽な扱いに対する彼のこのストレートな怒りは同級生達のような様々な体験と共鳴し一番の共感を得、後々まで彼らに話題を提供しました。「日本人にも優しい良い人もたくさんいます。でも言いたかったのです」と彼はコメントしています。

「異文化体験」の向こうにあるものを、押し付けではなく互いに理解していくこと。その難しさを改めて思うと同時に、そのような場にいられることの幸せも感じました。

新たな気持ちで「共感」と「気づき」を肝に銘じ、学生たちと思いを共有しともに歩んでまいります。本年も国際ことば学院と学生たちに温かいご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

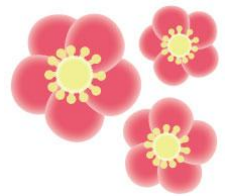
学院長 渡邊真理



新春初め授業

1月7日(火)、冬学期がスタートしました。初詣に行くクラスや書初めの授業をするクラスなど、日本のお正月を味わう2014年初授業の幕開けとなりました。

今回Fクラスでは、まず2013年の世相を1字で表す新聞記事を読み、今年の自分自身の抱負を決め漢字一文字で書き表しました。「協」や「親」など皆で一緒に助け合って頑張ろう、喧嘩しないでお互いに親しく過ごしましょうといった抱負や、「夢」や「合」など、夢の実現やN2試験・大学受験に合格するといった勉強の目標を掲げる学生もいました。ほとんどの学生が書道をするのが初めてで、難しいと言いながらも一枚の半紙に何度も練習をしていました。清書の時間は、クラス全体が最後の一文字に一球入魂、緊張の雰囲気になっていました。中には、自分の納得のいく字が書けなく悔しがる学生もいましたが、心を集中させ一生懸命に筆を握っていました。今年も学生たちにとって実り多き一年になることを願っています。



「騰」・・・心の中の目標や夢など続けてできるようになりたいです。この目標や夢は私にとって大切なので頑張らなければならない。全部達すると人生はもっとよくなる。

程達利(中国)

「夢」・・・今年の自分の夢の実現を願ってこの字を選びました。

ダウド(インドネシア)

「嬉」・・・今年は良い始まりで、新年が明けた。とても嬉しかったのでこのまま良い事が続く事を祈願して。 サリタ(ネパール)

「悦」・・・今年はいいスタートができた。このまま続くことを祈願して。

アースタ(インド)



心がホットするHOTな私の趣味

TOKOHA DANCE CLUB との出会い。

2013年4月に入学したミャンマー出身のユインエイカンポーさん。ミャンマーにいる時からダンスが大好きで、ミャンマーの大学にいる時に一度だけ踊った経験があり、ダンスの映画をよく見ていたそうです。日本に留学してからダンスをしたいという気持ちをずっと持ち続けていました。

学校の交流活動に参加した時、多文化交流会で出会った日本人の大学生から常葉大学のTOKOHA DANCE CLUBについて話を聞き、紹介してもらうことになりました。これが、TOKOHA DANCE CLUB との出会いです。常葉大学の1年生とチームを組み「KJ」としてHip Hopダンスの練習を週2回しています。

12月に青葉公園で開催されたクリスマスイベント「サンタドリームプロジェクト」に参加し、KJ初のダンス披露となりました。イベント前、練習がない日は携帯で撮ったチームメイトのダンスを見ながら鏡の前で自主練習を重ねたそうです。当日は、緊張よりもステージで踊る楽しさや喜びを仲間たちと共に分かち合いました。

勉強とアルバイトと毎日忙しい日々の中でもダンスをする時間を見つけて日本で充実した留学生活を送っています。

ダンスクラブに入部してまだ間もなく、最初は少し緊張もしていたということですが、ダンスを通して大学生たちとすぐに打ち解け、ミャンマーの話をしたり日本の大学生生活の話を聞いたりするとダンスが交流の架け橋になっています。

<ユインエイカンポーさんからメッセージ>

留学生で勉強とアルバイトだけの人生。皆さんも家の方と分かれて自分で生活するのは大変でいろいろなストレスが溜まっていますね。でも皆さんがどうやってストレスを解消していますか？私のストレスを解消する方法は「ダンス」です。今常葉大学のTokoha Dance Clubに入って一週間に二回参加しています。自分が好きな事だから大変でも楽しいです。踊っているうちに豆頭の中がダンスだけでストレスが全然なくなると心が明るくなります。健康にも良い、リラックスにもなるので忙しい中頑張りましょう。皆さんも自分が好きな事でストレスを解消して明るく毎日を過ごしましょう。



速報

大学・専門学校合格

冬学期が始まり、2年生は進学準備の真っ最中です。進学先が決定する学生も増えてきました。現在、大学・大学院・研究生合格者8名、専門学校合格者38名となっています。新年明けてから進学準備に追われる学生や試験が間近に迫っている学生たちも多くいます。卒業後の道を一步一步進み始めました。日本語学校生活も残り僅か……。思い残すことのない時間を過ごし笑顔で卒業式を迎えてほしいと思います。



<卒業式のお知らせ>

平成25年度の卒業式は3月7日（金）9：50よりグランシップにて挙行されます。詳細は次号で掲載いたします。



2014年 主な学校行事

- 3月7日（金） 平成25年度 卒業式
- 4月26日（土） 4月生入学式
- 5月16日（金） 運動会
- 7月19日（土） 国際文化交流会・7月生入学式
- 8月3日（日） 富士登山・富士急ハイランド
- 10月11日（土） 秋の文化祭
- 10月25日（土） 10月生入学式



編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年は、心にも時間にも余裕をもって2014年を過ごすとしたそばから、地球通信の締切日が迫るにつれ焦りを感じながら仕上げに取り掛かっていました。2014年午年。馬のように1年が早く駆け抜けそうです。一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。（長島）

